

	* 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHFA) 2d: 特定の使用制限のあるハーブ
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に用いれば短期間は安全性が示唆されているものの、過剰摂取する場合は、危険性も示唆されている。また、ガラナに含まれるカフェインを慢性摂取すると、ときに耐性、習慣性、依存性が現れることがある。 ・妊娠中・授乳中における過剰摂取は危険性が示唆されているので、過剰摂取は避ける。 ・副作用としては、過剰摂取で排尿痛、腸管痙攣、嘔吐が知られている。カフェイン含有物は不眠症、いらつき、動揺、吐き気、嘔吐、尿量増加、頻脈、不整脈、頻呼吸、痙攣、耳鳴り、頭痛、妄想、ひきつけの原因となることがある。 ・カフェイン 250mg/日を含む量のガラナ摂取で、血圧が上昇する場合があるが、カフェインを日常的に摂取している人ではあまりみられない。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <p>ヒトに対する有効性については、信頼できる十分なデータは見当たらない。</p>
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> 1. (20) ハーブ大百科 誠文堂新光社 デニ・バウン 2. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 3. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長) 4. (PMID:9680692) J AOAC Int. 1998;81(4): 691-701. 5. (PMID:11424516) J Hum Nutr Diet. 2001 Jun;14(3):243-50. 6. (PMID:11319627) Int J Obes Relat Metab Disord. 2001 Mar;25(3):316-24. 7. (PMID:14687776) Forensic Sci Int. 2004 Jan 6;139(1):71-3. 8. (PMID:12204389) Food Chem Toxicol. 2002 Sep;40(9):1257-61. 9. (PMID:10572159) N Engl J Med. 1999 Nov 25;341(22):1688-9. 10. (PMID:9717693) Reprod Toxicol. 1998 Jul-Aug;12(4):435-44. 11. (PMID:12615610) Am J Epidemiol. 2003 Mar 1;157(5):456-66. 12. (PMID:3420441) South Med J. 1988 Sep;81(9):1092-4. 13. (PMID:10572151) N Engl J Med. 1999 Nov 25;341(22):1639-44. 14. (PMID:15277438) Diabetes Care. 2004 Aug;27(8):2047-8. 15. (PMID:15213023) Am J Clin Nutr. 2004 Jul;80(1):22-8. 16. (PMID:12204387) Food Chem Toxicol. 2002 Sep;40(9):1235-42. 17. (PMID:11419773) Med J Aust. 2001 May 21;174(10):520-1. 18. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's Letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定) 19. (PMID:16418760) Int J Obes (Lond). 2006 Jan 17 	

No.162 ガルシニア・カンボジア

基本情報		
名称	和名:ガルシニア・カンボジア 英名: Citrin, Gamboge 学名: Garcinia cambogia オトギリソウ科[フクギ属]	
概要	ガルシニア・カンボジアは、インドや東南アジアに生育しているオトギリソウ科の常緑樹である。最近、果実成分のヒドロキシクエン酸が脂肪合成を阻害することで注目され、俗に「ダイエットに効果がある」といわれている。しかし、減量には効果がないことが示唆され、ヒトでの有効性については信頼できるデータが十分ではない。安全性についても信頼できるデータは見当たらないが、動物実験では精巢に悪影響を及ぼす可能性が報告されている。厚生労働省は安全性確保のために、「ガルシニア抽出物を継続的に摂取する健康食品に関する情報提供について(食発第 0307001 号平成 14 年 3 月 7 日)」という通知を行った。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	別名としてインディアンデイト/ゴラカ/タマリンドがある。果実、果皮、茎、種子、根、葉、花は「非医薬品」に区分される(30)。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	ガルシニアの果実はヒドロキシクエン酸(HCA)を50%含むと報告されており、HCAは脂質合成を阻害すると考えられている(64)。	
分析法	ガルシニア果実中のヒドロキシクエン酸などの分析法として、C18 カラム、移動相にメタノールと0.01M リン酸の勾配法を用いた高速液体クロマトグラフィー(HPLC)にて分離し、波長210nmでの紫外可視(UV)測定を行う方法(PMID:11929682)、ガスクロマトグラムを用いたPCI/GC/MS法がある(PMID:11319829)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。
	肥満	・ガルシニア・カンボジアの果実の外皮の抽出物は経口摂取で、減量に効果がないことが示唆されている(64)。摂取量の低下作用が示唆されているが、その推奨は時期尚早である。
その他	-	
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中で見当たらない。	
安全性		
危険情報	<ul style="list-style-type: none"> ・12 週までならば適切に用いれば、経口摂取で安全性が示唆されている。長期摂取の安全性については十分な情報がない(64)。 ・副作用については報告はない(64)。 ・妊娠中、授乳中の安全性については、十分な情報がないため使用を避ける(64)。 ・ラットを用いたガルシニアパウダーの長期安全性試験において、精巢への影響が強く示唆されたことから、厚生労働省は安全性確保のために、「ガルシニア抽出物を継続的に摂取する健康食品に関する情報提供について(食発第 0307001 号平成 14 年 3 月 7 日)」という通知を行った。 	

禁忌対象者	調べた文献の中で見当たらない。
医薬品との相互作用	ハーブその他のサプリメント成分との相互作用については、十分な情報がない(64)。医薬品、食品との相互作用、臨床検査、病態に対する影響は知られていない。また臨床的に有意な相乗効果も期待できない(64)。
動物他での毒性試験	調べた文献の中で見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	参考文献中に記載なし *米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)
総合評価	
安全性	長期摂取の安全性については十分な情報がない。ラットを用いたガルシニアパウダーの長期安全性試験において、精巢への影響が強く示唆されており、厚生労働省は安全性確保のために、「ガルシニア抽出物を継続的に摂取する健康食品に関する情報提供について(食発第 0307001号平成 14 年 3 月 7 日)」という通知を行った。妊婦や授乳婦に対する安全性の情報は十分にならないため使用を避ける。
有効性	(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ガルシニア・カンボジアの果実の外皮の抽出物は経口摂取で、減量に効果がないことが示唆されている。有効性については科学的に十分なデータがない。
Keyword	減量、運動持久力。
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> (30)「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成 16 年 3 月 31 日 薬食発第 0331009 号 厚生労働省医薬食品局長) (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース (日本語版)2004(第一出版刊行予定) (PMD:11929682)J. Pharm. Biomed. Anal., 28: 379-384, 2002 (PMD:11319829)Anal. Biochem., 292: 148-154, 2001 	

No.14 γ -アミノ酪酸(ギャバ)

基本情報		
名称	和名: γ -アミノ酪酸(ギャバ) 英名: γ -aminobutyric acid(GABA) 学名: -	
概要	ギャバ(GABA)は、甲殻類の神経筋接合部、哺乳類の小脳、脊髄、大脳などに多く存在する抑制性神経伝達物質と考えられているアミノ酸である。玄米には天然ギャバが多く含まれ、さらに発芽することによって増加し、発芽玄米には白米の約10倍のギャバが含まれるともいわれている。その他、緑茶葉を窒素ガス下で処理したギャバロン茶や、ぬか漬けなどにも含まれている。GABAを関与成分とする特定保健用食品が許可されている。その他、ヒトでの有効性については、信頼できるデータが見当たらない。安全性についても、通常の食品に含まれる摂取量を超えた場合の安全性については、信頼できるデータが見当たらないため妊娠中・授乳中の使用は避けるべきとされている。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	「非医薬品」に区分される(30)。特定保健用食品がある。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	C ₄ H ₉ NO ₂ 、分子量 103.12	
分析法	γ -アミノ酪酸をオルトフタルアルデヒド(o-phthalaldehyde)で誘導化し、逆相カラムと蛍光検出器(FLD)(励起波長 340~350nm、蛍光波長 450~455nm)を装着した高速液体クロマトグラフィー(HPLC)法で分析した報告がある(PMID: 10080632)(101)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	・GABA含有発酵乳製品の摂取は、軽症高血圧および正常高値血圧の者において、拡張期および収縮期血圧を低下させたという報告がある(PMID:12627188)(102)(103)。 ・GABAを含む食品が特定保健用食品として許可されている。表示例は「本品は γ -アミノ酪酸(GABA)を含んでおり、血圧が高めの方に適した飲料です」など。
	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。
	肥満	調べた文献の中で見当たらない。
	その他	-
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中で見当たらない。	
安全性		
危険情報	・GABAの通常の食品に含まれる摂取量を超えた場合の安全性については信頼できるデータが十分でない(64)。 ・妊娠中、授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること(64)。 ・副作用は報告されていない(64)。	
禁忌対象者	調べた文献の中で見当たらない。	
医薬品との相互作用	・他のハーブやサプリメント、食品、医薬品との相互作用は知られていない(64)。 ・臨床検査値や疾病などの健康状態に対する影響は知られていない(64)。	

動物他での毒性試験	急性毒性:ギャバをマウスに経口投与したときの LD50 は 12680 mg/kg である(91)。
AHPA クラス分類および勧告	調べた文献の中で見当たらない。 *米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)
総合評価	
安全性	・GABA の安全性については信頼できるデータが十分でない。 ・妊娠中、授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること。
有効性	(注:下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ヒトの健康に関する有効性の科学的な文献は見当たらない。
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> (64) Pharmacist' s Letter/Prescriber' s letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(<small>独立健康・栄養研究所監訳</small>「健康食品」データベース (日本語版)2004(第一出版刊行予定) (PMID: 10080632) J Chromatogr B Biomed Sci Appl. 1999 Feb 19;723(1-2):47-59. (101) http://www.an.shimadzu.co.jp/support/lib/an/200206/1275.pdf (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成 16 年 3 月 31 日 薬食発第 0331009 号 厚生労働省医薬食品局長) (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS). (102)健康・栄養食品研究. 2003 6(2):51-64. (103) 日本食品化学工学会誌. 2004 Fri;51(2):79-86 (PMID:12627188) Eur J Clin Nutr. 2003 Mar;57(3):490-5. 	

No.563 γ -リノレン酸

基本情報		
名称	和名: γ -リノレン酸 英名: gamma-Linolenic acid 学名:	
概要	γ -リノレン酸は n-6 系の二重結合を 3 個もつ多価不飽和脂肪酸で、体内でリノール酸から合成され、ジホモ- γ -リノレン酸を経てアラキドン酸に変わる。月見草油には多く含まれているが、食品中にはあまり多く含まれていない。俗に、「血糖値を下げる」、「血圧を下げる」、「血中コレステロールを下げる」などといわれている。ジホモ- γ -リノレン酸は体内でプロスタグランジンになり、体内でさまざまな生理機能を有する。ヒトでの有効性については、糖尿病由来の神経障害や関節リウマチの症状の軽減に対して経口摂取で有効性が示唆されている。安全性については、適切に摂取すれば経口摂取でおそらく安全と思われるが、妊娠中・授乳中の安全性については十分なデータがないので使用を避ける。その他、詳細については「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	-	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	C18H30O2、分子量(MW)278.44。6、9、12 位にシス二重結合をもつ炭素数 18 の n-6 系列の直鎖不飽和脂肪酸。略号 18:3n-6。リノール酸より生成し、プロスタグランジンや、アラキドン酸の前駆体となる。	
分析法	試料をケン化後、脂肪酸を抽出し、ガスクロマトグラフィーで測定する(101)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	・糖尿病由来の神経障害に対して経口摂取で有効性が示唆されている(PMID:2159860)(PMID:8380765)。I 型および II 型糖尿病患者が γ -リノレン酸 480mg/日を 1 年間摂取したところ、神経機能の悪化が予防されたという報告がある。これは血糖値コントロールが良好な患者で、より好成績であったという(64)(PMID:8380765)。 ・全身性硬化症に対しては経口摂取で効果がないことが示唆されている(64)。
	免疫・がん・炎症	・関節リウマチに対して経口摂取で有効性が示唆されている(64)(PMID:8912502)。 ・乳がん患者において、タモキシフェンへの反応性を早めるために経口摂取で有効性が示唆されている(64)(PMID:10699943)。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	・適切に用いれば経口摂取でおそらく安全と思われる(64)。2.8g/日以下ならば 1 年間まで安全に摂取できるとされている(64)。 ・妊娠中、授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること(64)。 ・経口摂取の副作用としては軽い胃腸症状(吐き気、嘔吐、軟便、下痢、腹部膨満、げっぷなど)	

	が知られている(64)。
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。
医薬品との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ・抗凝固作用のあるハーブやサプリメント、医薬品との併用で、出血傾向が高まることがある(PMID:7846101)。出血傾向の高い人は、単独摂取でもその恐れがある(64)。 ・臨床検査値(出血時間、脂質プロファイル)に影響を与えることがある(PMID:7846101)。 ・他の食品との相互作用は知られていない(64)。 ・理論的にγ-リノレン酸とビタミンEを含むサプリメントは、フェノチアジン系薬物で治療している人において発作のリスクが高まるので、使用には注意を要する(64)。
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	-
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に用いれば経口摂取でおそらく安全と思われる。しかし、妊娠中・授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避ける。 ・経口摂取の副作用としては、軽い胃腸症状(げっぷ、腹部膨満、下痢、吐き気、嘔吐、軟便 など)が知られている。 ・抗凝固作用のあるハーブやサプリメント、医薬品との併用で、出血傾向が高まることがある。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経口摂取で有効性が示唆されているのは、1)糖尿病由来の神経障害、2)関節リウマチ。 ・経口摂取で全身性硬化症に対しては効果がないことが示唆されている。
Keyword	糖尿病由来の神経障害、関節リウマチ、タモキンフェン反応性、全身性硬化症
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> 1. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長) 2. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定) 3. (101) 五訂 日本食品標準成分表分析マニュアルの解説 財団法人日本食品分析センター/編集 4. (PMID:2159860)Diabet Med. 1990;7:319-23. 5. (PMID:8380765)Diabetes Care. 1993;16:8-15. 6. (PMID:8912502)Arthritis Rheum. 1996;39:1808-17. 7. (PMID:10699943)Int J Cancer. 2000;85:643-8. 8. (PMID:7846101)Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 1994 Nov;51(5):311-6. 	

No.27 キシリトール

基本情報		
名称	和名:キシリトール 英名:Xylitol 学名:-	
概要	キシトールは、キシリットともいわれ、D-キシロースを還元して得られる糖アルコールである。俗に「シヨ糖やグルコースと比べて虫歯になりにくい」、「低カロリーで血糖値上昇抑制効果を持つ甘味料」などといわれている。ヒトでの有効性については、「虫歯の原因になりにくい」、「歯を丈夫で健康にする食品」として、キシリトールを関与成分とした特定保健用食品が許可されている。安全性については、食品中に含まれる量であれば経口摂取でおそらく安全と思われるが、一度に大量(30~40g)摂取すると、下痢や腹部不快感を生じるとされている。妊娠中・授乳中では、医療に用いる摂取量の安全性について十分なデータがないことから使用を避けることとされている。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	「非医薬品」に区分される(30)。「指定添加物」(甘味料)である。米国では GRAS(一般的に安全と見なされた物質)認定。特定保健用食品の成分になっている。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	C ₅ H ₁₂ O ₅ 、分子量 152.15。	
分析法	紫外可視(UV)検出器を装着した高速液体クロマトグラフィー(HPLC)による分析の報告がある(PMID: 11043600)(PMID: 6613357)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。
	脳・神経・感覚器	・就学前の小児における急性中耳炎の発症率を低下させるのに、経口摂取で有効性が示唆されている(64)。就学前の小児に1日8.4-10gのキシリトールをガムやトローチ、シロップの形で1日5回に分けて与えたところ、急性中耳炎の発生と抗生物質の使用頻度が有意に減少したという報告がある(64)。 ・ガムやシロップには急性中耳炎の予防効果があるという、限定的なエビデンスが見つかった(25)。システマティック・レビューは見つからなかったが、プラセボと比較した1件の無作為割付臨床試験(RCT)によれば、シロップを与えられた小児は、コントロールを与えられた群に比較して、1回以上急性中耳炎の罹患率を持つ可能性がより少なく、ガムもまたプラセボと比較して罹患率を減少させた(25)。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。
	肥満	調べた文献の中で見当たらない。
	その他	・虫歯予防に外用でおそらく有効と思われる(64)。キシリトール含有製品(食品、ガム、アメ、歯磨き粉など)でキシリトールを1日1-20g使用すると、成人および小児における虫歯の発生を有意に抑えたという報告がある(64)。キシリトール製品はソルビトール製品よりも虫歯予防効果が高いことが明らかになった(64)。 ・キシリトールを関与成分とし、「虫歯の原因にならない甘味料(キシリトールおよびマルチトール)」を使用しています。また、歯の再石灰化を増強するキシリトールを配合しているので、歯を丈

	夫に保ちます」などの表示が許可された特定保健用食品がある。
試験管内・動物他での評価	ラットの経口投与による LD50 値は 16.5g/kg(70)。
安全性	
危険情報	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に大量(30-40g)に摂ると下痢を誘発することがある(5)(64)。副作用として腹部不快感がある(25)。 ・高濃度の静注による副作用としては、高尿酸血症、肝機能試験値の変化、アシドーシスが知られている(64)。 ・食品中に含まれる量であれば経口摂取でおそらく安全と思われる(64)。医療目的で適切に用いられれば経口摂取、外用で安全性が示唆されている(64)。20-53g/日(小児は 20g/日)を 3 年間まで安全とされる(64)。長期に多量摂取するのは危険性が示唆されている(64)。 ・妊娠中、授乳中は食品中に含まれる量であればおそらく安全と思われる(64)が、医療に用いる量の摂取の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること(64)。
禁忌対象者	調べた文献の中で見当たらない。
医薬品との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ・他のハーブやサプリメント、食品、医薬品との相互作用は知られていない(64)。 ・臨床検査や疾病などの健康状態に対する影響は知られていない(64)。
動物他での毒性試験	調べた文献の中で見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	<p>参考文献中に記載なし</p> <p>* 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)</p>
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・食品中に含まれる量であれば経口摂取でおそらく安全と思われる。医療目的で適切に用いられれば経口摂取、外用で安全性が示唆されている。長期に多量摂取するのは危険性が示唆されている。 ・妊娠中、授乳中では、医療に用いる量の摂取の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること。 ・一度に大量(30-40g)に摂ると下痢を誘発することがある。副作用として腹部不快感がある。 ・高濃度の静注による副作用としては、高尿酸血症、肝機能試験値の変化、高酸血症が知られている。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前の小児における急性中耳炎の発症率を低下させるのに、経口摂取で有効性が示唆されている。 ・ガムやシロップには急性中耳炎の罹患率を抑制するという限定的なエビデンスが見つかったりしている。 ・虫歯の原因にならない、歯の再石灰化を増強する機能が、特定保健用食品の審査で認められている。
Keyword	急性中耳炎、虫歯、再石灰化、特定保健用食品
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> 1. (5) 栄養成分バイブル 主婦と生活社 中村丁次 2. (25) クリニカル・エビデンス日本語版 日経 BP 社 日本クリニカル・エビデンス編集委員会 3. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定) 4. (PMID:11043600)J Chromatogr A. 2000 Sep 29;893(1):195-200. 5. (PMID:6613357)Z Lebensm Unters Forsch. 1983;176(6):417-20. 	

6. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)
7. (70) RTECS(REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCES)#ZF0800000。

No.19 キシロオリゴ糖

基本情報																					
名称	和名:キシロオリゴ糖 英名: Xylo-oligosaccharide 学名:-																				
概要	<p>キシロオリゴ糖は、食物繊維キシランを可溶化し、消化酵素を作用させて製造されているが、自然界ではタケノコ等に少量含まれている。俗に「ビフィズス菌を増やす」、「便秘改善作用がある」、「オリゴ糖類の中で最も少量で整腸作用を発揮する」などといわれている。ヒトでの有効性については、キシロオリゴ糖を関与成分とした特定保健用食品が許可されている。また、安全性については、信頼できるデータが見当たらない。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。</p> <div style="text-align: center;"> <p>キシロオリゴ糖の製造工程</p> <pre> graph LR A[とうもろこし (芯の部分)] --> B[特別な酵素による 糖化] B --> C[糖の精製] C --> D[キシロオリゴ糖] </pre> </div>																				
法規・制度	オリゴ配糖体であり、「非医薬品」に区分される(30)。「既存添加物」(甘味料)である。特定保健用食品の成分となっている。																				
成分の特性・品質																					
主な成分・品質	キシロオリゴ糖はオリゴ糖類中、最も少量で整腸作用を発揮するとされる。製造には籾殻等に含まれる食物繊維キシランを可溶化し、酵素を作用させる。																				
分析法	示差屈折計(RID)を装着した高速液体クロマトグラフィー(HPLC)法により分析されている(101)。																				
有効性																					
ヒトでの評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">循環器・呼吸器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>消化系・肝臓</td> <td>キシロオリゴ糖を関与成分とし、おなかの調子を整える機能が表示できる特定保健用食品が許可されている。</td> </tr> <tr> <td>糖尿病・内分泌</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>生殖・泌尿器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>脳・神経・感覚器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>免疫・がん・炎症</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>骨・筋肉</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>発育・成長</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>肥満</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>-</td> </tr> </table>	循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。	消化系・肝臓	キシロオリゴ糖を関与成分とし、おなかの調子を整える機能が表示できる特定保健用食品が許可されている。	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。	脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。	肥満	調べた文献の中で見当たらない。	その他	-
循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。																				
消化系・肝臓	キシロオリゴ糖を関与成分とし、おなかの調子を整える機能が表示できる特定保健用食品が許可されている。																				
糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。																				
生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。																				
脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。																				
免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。																				
骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。																				
発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。																				
肥満	調べた文献の中で見当たらない。																				
その他	-																				

試験管内・動物他での評価	調べた文献の中で見当たらない。
安全性	
危険情報	調べた文献の中で見当たらない。
禁忌対象者	調べた文献の中で見当たらない。
医薬品との相互作用	調べた文献の中で見当たらない。
動物他での毒性試験	調べた文献の中で見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	参考文献中に記載なし *米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)
総合評価	
安全性	・ヒトの安全性に関する文献は見当たらない。
有効性	(注:下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ・おなかの調子を整える機能が特定保健用食品の審査で認められている。
Keyword	急性中耳炎、虫歯、再石灰化、特定保健用食品
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長) (101) 財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品試験検査マニュアル 	

No.109 キダチアロエ(俗名:アロエ、医者いらず)

基本情報		
名称	和名:キダチアロエ(俗名:アロエ、医者いらず) 英名:Kidachi Aloe 学名:Aloe arborescens Mill. ユリ科[アロエ属]	
概要	キダチアロエは、南米アフリカ(ケープ、トランスバール地方)の原産で、日本には江戸時代に渡来し、観賞用、薬用として各地で栽培されている。キダチは木立を意味し、鋭いトゲのある葉を伸ばしながら高くなる。「医者いらず」と呼ばれるアロエ類の一つで、俗に「自然治癒力を向上させる」、「血糖値を低下させる」、「整腸作用がある」などといわれているが、ヒトでの有効性については信頼できるデータが見当たらない。安全性については、妊娠中・授乳中や月経時、8日以上以上の使用、12歳以下の小児に対する使用は避けること、腸閉塞や原因不明の腹痛、腸の炎症を伴う症状、痔疾、腎臓障害には禁忌とされている。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	葉は「非医薬品」に区分される(30)。ただしアロエの葉液汁は「医薬品」に区分される。キダチアロエ抽出物は「既存添加物」で増粘剤、安定剤、ゲル化剤、糊料。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	アロエ類はいずれも同様の成分を持ち、使い方も同じである。薬用アロエ(アロエの葉から得られる苦い汁を濃縮したもの)にはアントラキノン配糖体アロイン(aloin=barbaloin)、アントラキノンのアロエエモジン(aloe-emodin)、サリチル酸化合物(salicylate components)、乳酸マグネシウム(magnesium lactate)、樹脂を含む。ゼリー状物質にはグルコマンナン、多糖類のほか、ステロイド、有機酸、酵素、抗生物質、アミノ酸、サポニン、ミネラルも存在すると言われる。なかでもアロインは苦味成分で、緩下活性、殺菌作用を有する。	
分析法	品質の指標として、barbaloin が紫外可視(UV)検出器(検出波長:293nm)付高速液体クロマトグラフィー(HPLC)により分析されている。使用カラムは、YMC A-302 である(PMID:4019374)。aloinin, barbaloin および isobarbaloin を micellar electrokinetic chromatography により同時分析する方法もある(PMID:11254203)。アロエドリンク中の barbaloin および aloe-emodin を LC/MS により分析し、barbaloin 120~570 μg/ml, aloe-emodin 0.03~1.3 μg/ml が含まれることを報告している(PMID:12238148)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。
	肥満	調べた文献の中で見当たらない。
	その他	-
試験管内・動物他での評価	<ul style="list-style-type: none"> ・主な成分アロインが大腸粘膜を刺激する(17)。 ・成分の一つアロクチンAは、ヒトのT細胞および副細胞とともに培養すると、インターロイキンなどのリンホカイン類を生成する。また、試験管内でナチュラルキラー細胞(NK細胞)活性を促進し、腫瘍細胞に対する毒性を引き起こすという報告がある(23)。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・アロクチンAは抗潰瘍(胃酸分泌と胃壁損傷を阻害する)活性を有する(23)。 ・キダチアロエに含まれるカルボキシペプチダーゼはラットの火傷に対してかなりの治癒効果があったが、処置に使用するより、予防薬とするほうが効果が大きかった(23)。 ・レクチンは浮腫や関節炎に対して効果があることが報告されている(23)。
安全性	
危険情報	<ul style="list-style-type: none"> ・アロエエモジンは直接子宮収縮を促進するため、月経過多、早産、流産を起こし、墮胎作用がある。妊娠時、月経時、腹痛、嘔吐、虫垂炎の時には用いないこと(9)(20)。過敏性大腸症候群及び内痔核の患者に使用してはならない(20)。 ・刺激性瀉下作用があるので注意(22)。 ・キダチアロエの内鞘の葉を乾燥させた液剤の過剰摂取(1.0g 以上を毎日、5-6 日間)は結腸の穿孔と出血を伴う下痢や腎臓障害を起こすことがある。死亡例も1例ある(22)。 ・キダチアロエの内鞘の葉を乾燥させた液剤は、現在一般的には下剤としては用いるべきでないと考えられている(22)。
禁忌対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳中には使用しないこと(22)(64)。8-10 日間を超える期間の使用も禁忌(22)。 ・妊娠時、月経時には用いないこと(9)(20)(22)(64)。12 歳以下の小児も禁忌(22)(64)。 ・腸閉塞や原因不明の腹痛には禁忌。また、炎症を伴ういかなる腸の症状・状態(虫垂炎、大腸炎、クローン病、過敏性大腸症候群など)にも禁忌(22)。痔疾、腎臓障害にも禁忌(22)。
医薬品との相互作用	調べた文献の中で見当たらない。
動物他での毒性試験	調べた文献の中で見当たらない。
AHPA クラス分類および勧告	<p>アロエの内鞘の葉を乾燥させた液剤については、クラス 2b: 2c: 2d(禁忌対象者の項目参照)(22)。</p> <p>勧告「腹痛または下痢が見られたときは、この製品の使用を中止すること。妊娠中または授乳中は、使用する前に医療従事者に相談すること。下痢や水様便が見られたときは、使用を中止すること。定められた用量を超えないこと。長期間の使用をしないこと」(22)。</p> <p>*米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA) クラス2b: 妊娠中に使用しないハーブ、2c: 授乳期間中に使用しないハーブ、 2d: 特定の使用制限のあるハーブ</p>
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠時、月経時、授乳中には使用しないこと。8-10 日間を超える期間の使用、12 歳以下の小児、腸閉塞や原因不明の腹痛、炎症を伴ういかなる腸の症状・状態(虫垂炎、大腸炎、クローン病、過敏性大腸症候群など)、痔疾、腎臓障害にも使用禁忌。 ・キダチアロエの内鞘の葉を乾燥させた液剤の過剰摂取(1.0g 以上を毎日、5-6 日間)は結腸の穿孔と出血を伴う下痢や腎臓障害を起こすことがあり、死亡例も1例あるため、一般的には下剤としては用いるべきでないと考えられている。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトでの有効性については参考となる十分なデータが見当たらない。
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> 1. (9) 原色薬草図鑑 北隆館 2. (17) 天然薬物辞典 廣川書店 奥田拓男編 3. (23) 天然食品・薬品・化粧品的事典 朝倉書店 小林彰夫ら 監訳 4. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 5. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成 16 年 3 月 31 日 薬食発第 0331009 号 厚生労働省医薬食品局長) 6. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(独)国立健康・ 	

栄養研究所監訳「健康食品」データベース（日本語版,2004(第一出版刊行予定)

7. (PMID:4019374) Assoc Off Anal Chem. 1985 May-Jun;68(3):493-4.
8. (PMID:11254203) J Chromatogr B Biomed Sci Appl. 2001 Mar 5;752(1):91-7.
9. (PMID:12238148) Shokuhin Eiseigaku Zasshi. 2002 Jun;43(3):122-6.

No.572 キチン

基本情報		
名称	和名:キチン 英名:Chitin 学名:-	
概要	キチンは、かにやえびなどの甲殻類の外殻にあるムコ多糖類であり、不溶性の食物繊維として知られている。キチンが部分的に脱アセチル化すると、キトサンになる。一般に食品添加物(増粘剤、安定剤)として利用されている。俗に、「免疫力を助ける」、「血圧を下げる」、「血中コレステロールを下げる」などといわれているが、ヒトでの有効性・安全性については信頼できるデータは見当たらない。その他、詳細については「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	「非医薬品」に区分される(30)。「既存添加物」:増粘剤、安定剤、ゲル化剤、糊料である。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	β -1,4-poly-N-acetylglucosamine。節足動物、軟体動物、外肛動物、菌類の主要な構造多糖であり、白色、無定形粉末又は繊維状で、酸、アルカリおよび各種溶媒に不溶である。	
分析法	キチンは AOAC 法により分析するが、アミノ糖であるためキチン由来の窒素量を求め、残渣中の総窒素量を差し引く補正を行っている(101)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中に見当たらない。	
安全性		
危険情報	キチン含有製品の外用による皮膚炎の報告がある(102)。	
禁忌対象者	調べた文献の中に見当たらない。	
医薬品との相互作用	調べた文献の中に見当たらない。	
動物他での毒性試験	調べた文献の中に見当たらない。	
AHPA クラス分類および勧告	-	
総合評価		
安全性	・キチン含有製品の外用による皮膚炎の報告がある。 ・経口摂取する場合の安全性については、信頼できる十分なデータは見当たらない。	
有効性	(注:下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。) ヒトに対する有効性については信頼できる十分なデータは見当たらない。	

Keyword

-

参考文献

1. (30) 「医薬品の範囲に関する基準」別添3 (平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長)
2. (101) 日本農芸化学会誌 vol.67, No 4, pp.677~684, 1993
3. (102) 皮膚病診療 26;1019-1021,2004

No.26 キトサン

基本情報		
名称	和名:キトサン 英名:Chitosan 学名:-	
概要	キトサンは、カニ殻などから抽出される不溶性の食物繊維であるキチンをさらに加工したものである。キトサンの中にはキチンが16%ほど含まれていることから、実際はキチン・キトサンとして扱われている。俗に「便秘を解消する」、「有害成分を排泄する」などといわれている。ヒトでの有効性については、キトサンを関与成分とした特定保健用食品が許可されている。安全性については、経口摂取、および外用で安全性が示唆されているが、妊娠中・授乳中の安全性については十分なデータがないことから使用は避けることとされている。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。	
法規・制度	「非医薬品」に区分される(30)。特定保健用食品の成分となっている。	
成分の特性・品質		
主な成分・品質	β -1,4-poly-N-glucosamine。キチンの脱アセチル化物。水に不要であるが希酸に可溶であり、塩は水溶性のものもある。	
分析法	試料を加水分解し、金属イオンアフィニティークロマトグラフを用いて精製した後、アセチル化[N-acetylchitooligosaccharides(GlcNAc2-7)]して高速液体クロマトグラフィー(HPLC)質量分析計により分析した報告がある(PMID: 7573948)。また、キャピラリー電気泳動による高分子のキトサン(Mr200,000)の分析例がある(PMID:11504055)。	
有効性		
ヒトでの評価	循環器・呼吸器	・腎不全患者や血液透析患者において、高コレステロール値を下げる、あるいは貧血を改善するのに経口摂取で有効性が示唆されている(64)。高脂血症を有する女性患者に対し、キトサン1.2g/日の服用56日間(41名)とプラセボ服用(43名)を無作為化二重盲検試験にて比較したところ、総コレステロール値の低下を認めた(PMID: 12771974)という報告がある一方、同用量3ヶ月間のクロスオーバー無作為化二重盲検試験では脂質に影響を与えなかったという報告もある(PMID: 14605789)。 ・キトサンを関与成分とし「コレステロールの高い方または注意している方の食生活の改善に役立ちます」などの表示が許可された特定保健用食品がある。
	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。
	脳・神経・感覚器	腎不全患者や血液透析患者において、食欲を高める、あるいは睡眠を改善するのに経口摂取で有効性が示唆されている(64)。
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中で見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。
	肥満	体重減少には経口摂取でおそらく効果がないと思われる(likely ineffective)(64)(PMID: 10369493)。
	その他	・歯周炎の治療、形成外科手術部位の組織再生促進に外用で有効性が示唆されている(64)。 ・腎不全患者や血液透析患者において、身体を丈夫にするのに経口摂取で有効性が示唆されている(64)。
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中で見当たらない。	

安全性	
危険情報	<ul style="list-style-type: none"> ・経口摂取、外用で安全性が示唆されている(64)。 ・妊娠中、授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること(64)。
禁忌対象者	調べた文献の中で見当たらない。
医薬品との相互作用	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査値(コレステロール、ヘモグロビン、尿素、クレアチニン)に影響を与えることがある(64)。 ・他のハーブやサプリメント、食品、医薬品との相互作用は知られていない(64)。
動物他での毒性試験	キトサンのマウスの経口投与による LD50 値は 16g/kg と報告されている(PMID:9704098)。
AHPA クラス分類および勧告	<p>参考文献中に記載なし</p> <p>* 米国ハーブ製品協会(American Herbal Products Association, AHPA)</p>
総合評価	
安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・経口摂取、外用で安全性が示唆されているが、更なる科学的な検証が求められている。妊娠中、授乳中の安全性については十分なデータがないので、使用を避けること。
有効性	<p>(注: 下記の内容は、文献検索した有効性情報を抜粋したものであり、その内容を新たに評価したり保証したりしたものではありません。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレステロールが高めのヒトに対する有効性が、特定保健用食品の審査で認められている。経口摂取で有効性が示唆されているのは、腎不全患者や血液透析患者に対して、1)高コレステロール値を下げる、あるいは貧血を改善する、2)食欲を高める、あるいは睡眠を改善する、3)体力を維持するという作用である。 ・体重減少には経口摂取で、おそらく効果がないと思われる。
Keyword	-
参考文献	
<ol style="list-style-type: none"> 1. (64) Pharmacist's Letter/Prescriber's letter Natural Medicine Comprehensive Database, 5th ed. Stockton, CV: Therapeutic Research Faculty(2003)(3)国立健康・栄養研究所監訳「健康食品」データベース(日本語版)2004(第一出版刊行予定) 2. (PMID:11504055)Electrophoresis 2001 22: 2217-21. 3. (PMID:12771974)Eur J Clin Nutr. 2003 May;57(5):721-5 4. (PMID:14605789)Eur J Clin Pharmacol. 2003 Dec;59(10):741-6. 5. (PMID:10369493)Eur J Clin Nutr. 1999 May;53(5):379-81 6. (30)「医薬品の範囲に関する基準」別添3(平成16年3月31日 薬食発第0331009号 厚生労働省医薬食品局長) 7. (PMID:9704098)Biotechnol Annu Rev. 1996; 2:237-58. 	

No.500 キャッツクロー

基本情報																					
名称	和名: キャッツクロー 英名: Cat's claw 学名: <i>Uncaria tomentosa</i> (Willd.) DC. アカネ科[カギカズラ属]																				
概要	キャッツクローはアマゾン原産のハーブで、小枝から出る葉柄の付け根に、ネコの爪のような形の鉤が突き出ていることから、現地で「ネコの爪」と呼んでいたことに名前が由来する。インディオたちは蔓を切ったときに溢れ出てくる樹液を飲んだりして、消化器や免疫系の疾患に用いたようである。体系的調査は1950年代に開始され、70年代には抗腫瘍性物質も発見されている。俗に、「痛風やリウマチなどの痛みを効く」、「免疫力を高める」、「がんを効く」といわれているが、関節炎の痛みを緩和することについてのみ、有効性が示唆されている。しかし、その作用もヒトへの健康効果に関してはさらなる科学的な根拠が望まれる。安全性については、適切に短期間経口摂取する場合は、安全性が示唆されている。授乳中の安全性については信頼できるデータが充分ではない。その他、詳細については、「すべての情報を表示」を参照。																				
法規・制度	全草は「非医薬品」に区分される(30)。																				
成分の特性・品質																					
主な成分・品質	<ul style="list-style-type: none"> ・キノブ酸グリセリド(quinovic acid glycosides)を含む(21)。 ・キャッツクローの主要なアルカロイドはリンコフィリン(rhyncophiline)であり、pteropodine, isopteropodine, uncarine E などである (64)。 ・南米ペルーのジャングルに生育するアカネ科ウンカリア属の蔓性一年草。樹木に絡みながら伸び、最終的には直径20cm余り、長さ30m以上にも達する。樹皮を煎じて飲むのが一般的な使い方。 																				
分析法	アルカロイド類が紫外可視検出器(検出波長245nm)、質量分析器(MS)を装着した高速液体クロマトグラフィーにより分析されている(PMID:11488460)(PMID:14979528)。																				
有効性																					
ヒトでの評価	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 20%;">循環器・呼吸器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>消化系・肝臓</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>糖尿病・内分泌</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>生殖・泌尿器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>脳・神経・感覚器</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>免疫・がん・炎症</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・変形性関節症の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)(PMID:11603848)。ある特定のキャッツクローエキスの経口摂取1週間で膝を動かした際の痛みを軽減した。しかし、安静時の痛みや膝の腫れには効果がなかった(PMID:11603848)。 ・リウマチ性関節炎の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)。ある種のエキス(含まれるサイクリック・アルカロイドを調整してあるもの)の経口摂取で、リウマチ性関節炎の症状が徐々に改善された。24週間リウマチ治療薬と併用したところ、関節の痛みや腫れを軽減した(PMID:11950006)。 </td> </tr> <tr> <td>骨・筋肉</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>発育・成長</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>肥満</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>調べた文献の中で見当たらない。</td> </tr> </tbody> </table>	循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。	消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。	糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。	生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。	脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。	免疫・がん・炎症	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性関節症の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)(PMID:11603848)。ある特定のキャッツクローエキスの経口摂取1週間で膝を動かした際の痛みを軽減した。しかし、安静時の痛みや膝の腫れには効果がなかった(PMID:11603848)。 ・リウマチ性関節炎の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)。ある種のエキス(含まれるサイクリック・アルカロイドを調整してあるもの)の経口摂取で、リウマチ性関節炎の症状が徐々に改善された。24週間リウマチ治療薬と併用したところ、関節の痛みや腫れを軽減した(PMID:11950006)。 	骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。	発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。	肥満	調べた文献の中で見当たらない。	その他	調べた文献の中で見当たらない。
循環器・呼吸器	調べた文献の中で見当たらない。																				
消化系・肝臓	調べた文献の中で見当たらない。																				
糖尿病・内分泌	調べた文献の中で見当たらない。																				
生殖・泌尿器	調べた文献の中で見当たらない。																				
脳・神経・感覚器	調べた文献の中で見当たらない。																				
免疫・がん・炎症	<ul style="list-style-type: none"> ・変形性関節症の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)(PMID:11603848)。ある特定のキャッツクローエキスの経口摂取1週間で膝を動かした際の痛みを軽減した。しかし、安静時の痛みや膝の腫れには効果がなかった(PMID:11603848)。 ・リウマチ性関節炎の治療に経口摂取で有効性が示唆されている(64)。ある種のエキス(含まれるサイクリック・アルカロイドを調整してあるもの)の経口摂取で、リウマチ性関節炎の症状が徐々に改善された。24週間リウマチ治療薬と併用したところ、関節の痛みや腫れを軽減した(PMID:11950006)。 																				
骨・筋肉	調べた文献の中で見当たらない。																				
発育・成長	調べた文献の中で見当たらない。																				
肥満	調べた文献の中で見当たらない。																				
その他	調べた文献の中で見当たらない。																				
試験管内・動物他での評価	調べた文献の中で見当たらない。																				
安全性																					